

添加量の目安

配合飼料にかき殻は1～2%添加が理想的です

コーネル大学のスコット博士は、鶏のカルシウム必要量の2/3をかき殻で与えることを推奨しています。現在、産卵鶏へのカルシウムの一般的な推奨量は一羽当り一日4.2～4.8gです。その2/3、つまり2.8～3.2gをかき殻に置き換えるのが良いのです。かき殻のカルシウム含有比率は約36%ですから、トン当り78～89kg程度の配合が必要になります。実際には、自家配ではすぐにでも可能ですが、配合飼料の場合は配合飼料中の炭カル量を減らしてかき殻飼料に置き換える必要があります。これが最も効果的で、コスト的にも優れています。この方法には、指定配合にするか、あるいは炭カル量を減らした配合飼料に農場で添加するかの2つがあります。2つの方法が無理な場合は、配合飼料に1%～2%程度の添加が目安です。

初産前にもかき殻を

最近では各鶏とも性能がよくなり性成熟が早まってきています。そこでこれに対応した適切な給餌と飼養管理が必要となってきました。それには初産前飼料を与えるのが良く、この飼料のカルシウムの合計は2%です。実際にはカルシウム1%を含む配合飼料の他にトン当り25kgのかき殻を農場で与えるのが良いのです。

強制換羽・日齢後半での効果的な使い方

強制換羽に入るエサ切り前日に一羽当り20g～30g程度のかき殻を与えると、強制換羽後の商品化率向上に役立ちます。鶏の産卵能力向上に伴いカルシウムの要求量も増えています。日齢後半には2.0%以上のかき殻添加をお薦めいたします。

安心・安全な丸米のかき殻飼料

乾燥度に注目

かき殻飼料の品質と言えば、乾燥度です。弊社の製品は水分7%以下です。水分が5～10%違えば一袋で1～2kg違います。当然同じ20kgを混ぜても、与えるカルシウム量も違ってきます。また、安心・信頼もお届けしたいと願っております弊社は定期的にサルモネラの検査をしています。

★当社製品水分

7%以下

★他社製品水分

10%前後

Ca4.0g=配合飼料110g×3.6%



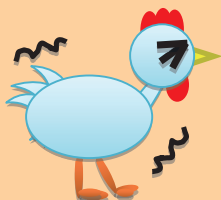
吸収は50%程度

Ca2.0g



総カルシウム含量

早朝にはカルシウム不足



卵へのCa
Ca2.3g

+

体内維持分Ca
Ca1.9g



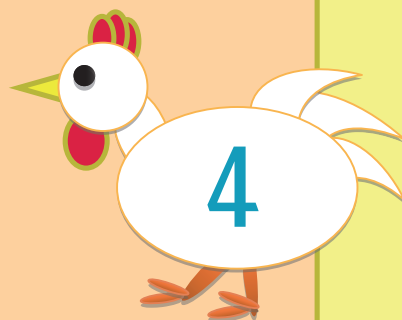
Ca4.2g
推奨量

なぜカルシウムは不足するのか

卵殻形成は、60%が飼料中から

40%が骨からのカルシウムが使われます

卵殻形成のためのカルシウムの60%が飼料中のカルシウムに由来し、残りの40%は骨に由来するカルシウムが使われるとされています。卵殻の98%は炭酸カルシウムでできています。一個の卵には良質なものでカルシウムをおよそ2.3g以上含みます。鶏は毎日大変な量のカルシウムを消費しているのです。良い卵殻質を作る為には、一日当たり少なくとも4.2g以上のカルシウムが必要となります。この場合、産卵率80%の鶏群の過半数は100%産卵の状態を維持しています。ですから100%水準の鶏群に必要なレベルのカルシウムを与える必要があります。それも多種のミネラルを含み持続性もあるかき殻飼料の形で与えることによって、卵殻質が改善されることが証明されています。カルシウムが不足している場合、卵をつくるために鶏は自分の骨格からのカルシウムの持出しを多くせねばなりません。飼料の給与量としては適切とされていても、高能力な鶏群は体の中でカルシウム不足がおきているのです。



卵殻の形成

骨格からのCa

40%

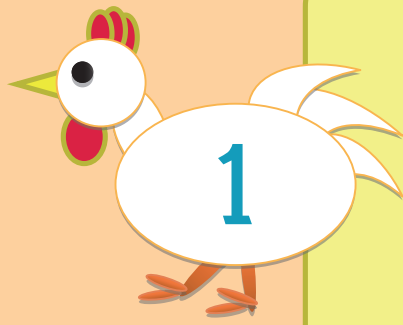
飼料中のCa

60%

高能力な鶏群を維持する為には、

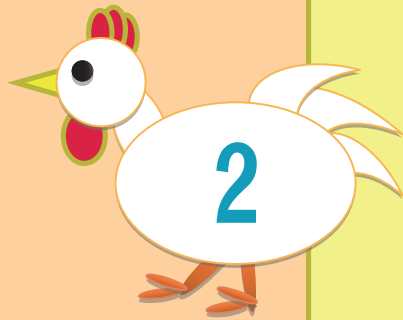
- ・多種のミネラルを含んでいる
- ・持続性のあるカルシウム

かき殻飼料を与えましょう！！



軟・破卵のお話

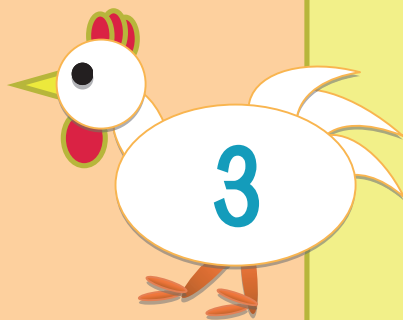
ある調査によると、産卵全体の軟破卵の発生率は約13%となっています。「そんなはずはない」と思われるかもしれませんが、集卵不能卵（殻のないもの・殻の極めて薄いもの）が約5%あり、それに集卵時、パッキング時、輸送中の破卵7～8%を合計すると12～13%になるのです。この軟破卵をいかに少なくするかが利益率を高めるポイントです。それにはまず、栄養学的要素からの改善が必要です。カルシウムとミネラルを豊富に含むかき殻は、商品化率改善の為に欠かせない飼料と言えるのです。



かき殻はなぜ良いのか

鶏体内での吸収効率がバツグンです
比重が軽く配合飼料と同程度

かき殻はその形成形態において優れています。かき殻がどのような構造になっているのか、わかりやすく説明致しますとレンガ積みの建物と思って下さい。カキは海中で、カルシウムをタンパク質と結合した形で分泌し、水中の二酸化炭素と結合して、炭酸カルシウムの小さなレンガを作ります。このレンガは多種のミネラルを抱えこんでいます。そしてそのレンガをつなぐのがタンパク質です。各種アミノ酸を含んだ、このコンキオリンと呼ばれる硬タンパク質はレンガの目地の役目です。この構造により鶏の体内での溶解性と吸収率が非常に良いのです。しかも、炭カル、貝化石等と大きく異なり優れているのは、比重が軽く配合飼料と同程度ということです。そのため配合飼料と良くなじみ、混合しやすく分離しにくいので、鶏群にムラなく行き渡ります。



産卵初期のカルシウムの大切さ

産卵開始時には大量のカルシウムが必要です

鶏群が性成熟に達してから産卵ピークに達する前後までの産卵初期のカルシウム摂取量の問題は、生涯、産卵生理機能に関わる重要で注意を要する問題です。産卵開始後約十日間で骨髓骨へのカルシウム貯蔵が完成し、この間にカルシウムが補給されないと、鶏は6個の産卵で骨格中のカルシウムの約4%を失うとされています。また、産卵開始直後にカルシウム不足を起こした鶏の卵殻質は、カルシウムを給与すれば元にもどりますが、産卵成績は、生涯にわたって阻害されます。このように、産卵開始時の短期間のうちに大量のカルシウムを必要とするとともに、この時期のカルシウムの量がその後の産卵成績に大きな影響をおよぼすからです。